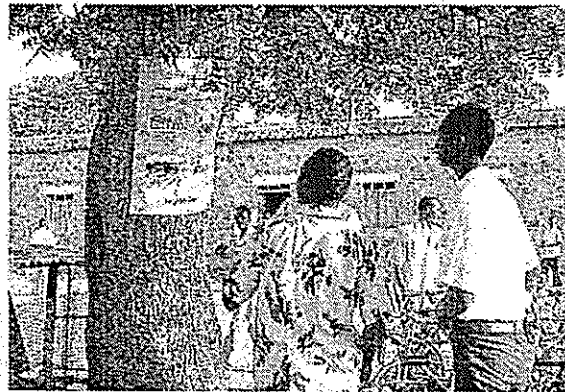




今井 高樹

「今すぐ登録所へ」と書かれた色鮮やかなポスターが、スーダン南部・ジュバの街頭に目立つ。南北の民族対立による内戦に阻まれ、全国規模の



24年待ちわびた選挙

選挙は24年ぶり。昨年11月の有権者登録から今年4月の投票まで、半年がかりという長丁場だ。

友人の女性のキデンさん(27)は大学2年生。内戦中、隣国ウガンダに逃れていたキデンさんにとって、今回が生涯初の選

挙になる。「同郷の友人たちと田舎に帰って有権者登録をするの」とうれしそうに語る。

驚いた私が「登録は今住んでいる町でできるじゃない?」とたずねると、「出身地で登録したいの」との答えが即座に返って

「君の投票のチャンスを逃すな!」と訴えるポスターに見入るスーダンの若者たち (筆者撮影)

きた。

キデンさんは特別な例ではない。昨年11月、「有権者登録のための1週間の休日」を政府が宣言したところ、故郷に帰る「民族大移動」の混乱に陥り、翌日に撤回された。

そんなドタバタ劇はあったものの、有権者登録は昨年12月、無事に終わった。キデンさんも故郷で登録を済ませた。来月には選挙戦が始まる。

「やっとめぐってきた選挙は、私たちの声を政治に反映する貴重な機会。とにかく無事に終わってほしい」。キデンさんは語る。

◇

いまい・たかき 北大卒業後、会社員を経て07年5月から、日本国際ボランティアセンター職員として、スーダン南部ジュバに駐在。46歳。